

州政府の高等教育予算の違いにより、公立大学授業料は州別に大幅な開きが存在 (11月2日)

シンクタンクのアーバン研究所 (Urban Institute) は 11 月 2 日、高等教育における財政的障壁に関する報告書「公立高等教育における資金調達 ～州による違い～ (Financing Public Higher Education : Variation across States)」を発表した。本報告書は、2014-15 学年度の公立大学における授業料や高等教育目的で拠出される予算などを州別に比較したものである。これによると、同学年度の高等教育州予算が学生 1 人あたり 5,000 ドル未満であった州は 7 州で、同 1 万ドル以上であった州も同じく 7 州であったことが明らかにされた。具体的には、拠出額最大のアラスカ州ではフルタイム学生 1 人あたり 1 万 8,550 ドルが州政府より拠出された一方、最小額であったニューハンプシャー州では同 3,660 ドルであった。この影響は授業料に反映されており、具体的には、同学年度の公立 4 年制大学の州在住者の年間授業料・手数料の全米平均は 9,139 ドルであったのに対し、最も低額のワイオミング州では 4,646 ドル、2 番目に低額のアラスカ州では 6,138 ドルであったが、逆に最も高額の新ハンプシャー州では 1 万 4,712 ドルで、州によって非常に大きな開きがあることが明らかになった。

なお、本報告書は、

<<http://www.urban.org/sites/default/files/alfresco/publication-pdfs/2000501-Financing-Public-Higher-Education-Variation-across-States.pdf>>からダウンロード可能。

Urban Institute, Financial barriers to college depend on where you live

<http://www.urban.org/urban-wire/financial-barriers-college-depend-where-you-live>